

2025年度 講義要綱

科目	コミュニケーション I	必修 講義	講師	竹島 孝昭
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ) 			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。 ・社会人としての自己像を明確にする。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」なかむらしんいちろう・鈴木八重子) ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」なかむらしんいちろう) ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」千葉幸) ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代) ・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」) ・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。(認定:「絵本のある空間」江花志乃) 			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。計6コマ 	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。 	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度 50点	
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 4/9 オリエンテーション 2 4/16 クラス活動① 3 4/23 三浦サニー先生のコミュニケーションプログラム(G1 金2限 10:40～12:10 4月25日(金)) 4 5/7 クラス活動② 5 5/14 クラス活動③ 6 5/21 産学連携 7 5/28 クラス活動④ 8 6/4 クラス活動⑤ オンライン週 9 6/11 クラス活動⑥ 10 6/18 クラス活動⑦ 11 6/ 25 クラス活動⑧ オンライン週 12 7/2 産学連携 13 7/9 クラス活動⑨ 14 7/16 クラス活動⑩ 15 7/23 クラス活動⑪ 前期終了 16 9/10 オリエンテーション 後期 17 9/17【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:なかむらしんいちろう・鈴木八重子 18 9/24 クラス活動⑫ 19 10/1【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:千葉幸 20 10/8 クラス活動⑬ オンライン週 21 10/15 産学連携 22 10/22【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術②」担当:なかむらしんいちろう 課題提出 23 10/29【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代 24 11/5 就職に向けて(1)担当就職相談室 25 11/12【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」(支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割) 課題提出 26 11/19 クラス活動⑭ オンライン週 27 11/26 産学連携 28 12/3【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:江花志乃 29 12/10 就職にむけて(1)担当就職相談室 30 12/17 クラス活動⑮ 後期最終日 			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	<p>竹島 孝昭:実務経験のある教員。 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○なかむらしんいちろう:講座責任者・絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者 ○鈴木八重子:前講座責任者 ○障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○江花志乃:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○千葉幸:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者</p>			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育と外国語		必修 講義	講 師	玉置 充佳
授業概要	保育で使う基本的な英会話の習得 英語の絵本の読み聞かせに慣れ親しむ 英語の歌と手遊びに慣れ親しむ 初対面の英会話の体験 Show and Tellスキルの体験				
授業目標	保育現場で使われる様々な英語表現をアクティビティを通して習得する。 保育現場で使える手遊びを実演しながら慣れ親しむ。 英会話の基本である初対面会話を実演しながら習得する。 Show and Tell をグループワークで体験する。 英語の絵本を様々なツールを介して慣れ親しむ。				
到達目標1	現場で使える必要最低限の英語表現を使うことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験(50点)		
到達目標2	基本的な初対面英会話ができる。 現場で使えるアクティビティ体験し、活かすことが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	発表 自己紹介(10点) 提出物 ミニ絵本(10点) 絵本読み聞かせ(15点) Show and Tell 発表(15点)		
授業方法	保育で活用できる実践的英語の基礎知識を学習。 ・保育現場のシチュエーションに合わせた英語のコミュニケーション学習 ・幼児の英語を使った指導に使える基礎知識(歌、絵本の読み聞かせ、Show and Tell)				
授業計画	1 コミュニケーションキー うた、褒め言葉、励まし言葉、自己紹介 2 幼保英語検定 初対面会話 3 Halloween 保育で使う公園での会話 4 オンライン レポートのサポート 5 産業連携 6 テストのサポート (短大レポート提出) 7 世界のBENTO 保育で使う食事の時の会話 8 世界のトイレ 保育で使うトイレと身支度の会話 9 Valentines 保育で使うその他の場面の会話 10 Christmas 総合復習 11 産業連携 12 筆記試験 絵本読み聞かせて 13 Show and Tell My 辞典 14 外国語 15 外国語				
必須テキスト	専用テキスト1冊 English for Use in Nursery Schools 保育園・幼稚園の先生に役立つ英語				
参考文献					
担当教員の 専門分野等	小学校、中学校アメリカにて就学 高校インターナショナルにて就学 [専門指導分野/指導年数] 幼児英語/25年、児童英語/40年、中高英語/30年、一般英語/30年、ビジネス英語/20年、英検/30年				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	25 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	25 %	

2025年度 講義要綱

科 目	体育講義 必修 講義	講 師	菊池 一英	
授業概要	生涯に渡り「健康な生活」を維持していくために、体育(幼児体育)がどのような貢献ができるか、そのための知識・技能を身に付ける。			
授業目標	1. 健康とは、体育とは、運動能力とは、発育、発達、成長とは、どのような言葉の概念規定があるかを歴史的、文化的、生理学的に学び習得する。 2. 具体的な保育場面を想定して環境構成や運動遊具を活用する保育過程を理解する。			
到達目標1	1. 保育現場を想定して、実際の指導内容を、年齢発達に沿った編成ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢・グループワーク討論への貢献度(20点) リアクションペーパー提出(30点)	
到達目標2	2. 幼児の発育、発達の特徴を踏まえ、各年齢に合わせて、実技種目で身体を動かすことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	実技種目で積極的に体を動かす(20点) チームで協力する姿勢を見せる(30点)	
授業方法	講義形式、グループワーク・トーキング(GW)、DVD視聴、実技体験			
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要、目標、評価、服装など) 領域「健康」の中での幼児体育の位置づけとは何か？ 2 運動遊具を使う遊び(マット)※実技 3 幼児体育の意義と社会的背景とは？ 4 運動遊具を使う遊び(巧技台)※実技 5 保育現場での体育的活動の実際ー設定保育と自由保育ー＜DVD視聴＞ 6 産学連携 7 リズムダンス遊び※実技(さんぼ他) 8 健康観の変遷 9 体育、幼児体育の歴史の変遷 10 体育遊びへの導入と展開(鬼遊び)※実技野外指導 11 健康とは何かを問い直す＜DVD視聴＞ 12 産学連携 13 幼児期の身体発達と運動能力の特徴 14 幼児期に体力をつける、運動能力を伸ばすとは？ 15 発育・発達・成長とは何かを問い直す＜DVD視聴＞			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	必修 講義		講 師	菊池 一英
授業概要	保育現場での体育(幼児体育)実技指導の導入ー展開ーまとめの方法とスキルを身に付けます。また、同時に遊具の安全管理についても学びます。			
授業目標	様々なバリエーションの実技を実際に行ってみて、保育現場で応用できる、実践力を習得する。			
到達目標1	保育場面を想定して、実技指導内容をプレゼンテーションができるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	体育実技への取り組みの貢献度(30点)実技指導内容のプレゼン力(20点)	
到達目標2	指導内容のねらい、留意点を踏まえ、運動内容を組み立てることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	リアクションペーパーの充実度(30点)運動内容に見合うねらい、留意点の把握(20点)	
授業方法	実際の体育(幼児体育)実技、運動遊びを集団で経験する。また、DVD視聴で様々な保育現場での取り組みを体験する。			
授業計画	1 オリエンテーション、体育遊びへの導入ー展開(ふれあい遊び) 2 サーキット遊び運動遊びへの実際と方法<DVD視聴> 3 体育遊びへの導入ー展開と方法(まねっこ遊び) 4 ロープワーク遊びの実際と方法(つなとり他) 5 ファンタジー遊びの実際と方法<DVD視聴> 6 産学連携 7 体育遊びへの導入ー展開と方法(鬼遊びジャンケンどっち鬼他) 8 体育遊びへの導入ー展開と方法(ジャンケン遊びジャンケン命令他) 9 体育遊びへの導入ー展開と方法(手遊び洋風おべんと箱他) 10 野外での運動遊びの実際と方法(野外タッチ鬼等) 11 保育現場における保育者(男性保育士等)の位置づけとは?<DVD視聴> 12 産学連携 13 体育遊びへの導入ー展開と方法 造形くきのこ>とのコラボレーション 14 体育遊びへの導入ー展開と方法(ダンス遊びおすしやさん他) 15 保育現場の運動会の実際(運動会で楽しむゲームのねらいと留意点)			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	30 %

2025年度 講義要綱

科 目	必修 講義		講 師	橋本 千鶴
授業概要	人間の言語能力である「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの特徴を理解し、保育者として求められる基礎的な言語能力の向上を目指す。実習や保育現場での対応を想定して、4つの言語能力を具体的な場面から考える。			
授業目標	1.「話すこと」自分の伝えたいことを分かりやすく表現する。 2.「聞くこと」相手の言いたいことを的確に把握する。 3.「書くこと」自分の考えや思いを明確に表現する。 4.「読むこと」書いてある内容を正確に理解し、適切に口頭で表現する。			
到達目標1	自分の考えや思いを、相手意識・目的意識を考えて適切に表現することができる(書く)。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への積極的な取り組み度(10点)・課題の評価①小論文(20点)②観察記録(5点)③連絡帳(5点)・リアクションペーパー(10点) →合計50点	
到達目標2	話し手や書き手の言いたいことを正確に理解し、自分の考えを明確にすることができる(話す・聞く・読む)。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への積極的な取り組み度(10点)・授業内の実技の評価①子供や保護者への話し方(10点)②話の聞き方(10点)③絵本の読み聞かせ(10点)・リアクションペーパー(10点) →合計50点	
授業方法	保育者に必要な4つの言語能力について、グループワーク・ディスカッション等の体験や実技を通して実践的に学ぶ。			
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価他)・【話】自己紹介・子供への話し方(1) 2 【書】文字の正しい書き方(平仮名・漢字他) 3 【書】観察記録・実習日誌の書き方 4 【書】連絡帳の書き方 5 【話】保護者への話し方・敬語 6 産学連携 保育課題【子供たちの様子を観察し、印象に残った場面について「観察記録」を簡単に書きましょう。】 7 【話】子供への話し方(2)おはなし 8 【書】原稿用紙の使い方・小論文の書き方 9 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(1)(言語的技法) 10 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(2)(非言語的技法) 11 【書】実習礼状などの書き方 12 産学連携 保育課題【子供と保育者の関わりの中で言葉遊び・わらべうた等があった場合、その場面、内容等を書きしょう。また、それらがなかった場合、保育者が子供に語りかける言葉で印象に残ったものについて、その場面、内容等を書きしょう。】 13 【読】昔話(解釈と言葉のおもしろさ) 14 【読】文章の読み方(音読)・【読】絵本の読み聞かせ① 15 【読】絵本の読み聞かせ②			
必須テキスト	特になし。			
参考文献	授業で適宜紹介。			
担当教員の 専門分野等	小学校教員として長く勤務し、国語・ことば分野を重点的に研究。日本カウンセリング学会認定カウンセラー。大学等で、幼児と言葉・保育内容指導法(言葉)・文章表現・言語文化表現・教育相談(カウンセリング)等の授業を担当。「教師・保育者のための教育相談」(共著・萌文書林)を出版。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2025年度 講義要綱

科 目	情報機器の操作 必修 講義		講 師	南部 英子
授業概要	コンピュータ(ハードウェア・ソフトウェア)、情報ネットワーク・セキュリティの基本的な知識を身に付ける。パソコンの基本操作、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本操作を習得する。			
授業目標	1. 日常生活を支える情報処理技術の基本的な知識を理解し、自身を守る最適な対策を選ぶことができる。 2. 保育の現場に最も身近なICT機器の1つであるパソコンを安全に効率よく使用方法を身に付ける。			
到達目標1	情報処理技術の基本知識を自分の言葉で説明できる。知識に基づき、情報化社会で直面する問題を解決するのに最適な解法を選択できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	該当授業時内容に関するまとめフォーム回答提出(20点)、情報処理技術に関するレポート提出(30点)	
到達目標2	Windowsパソコンを使い、文書作成・表計算・プレゼンテーションソフトの基本的な操作ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業内課題の提出(50点)	
授業方法	Windowsパソコン使用した実習。レポート添削・フィードバックあり。			
授業計画	1 オリエンテーション・情報化社会とコンピュータの発展・Windowsの基本操作 2 ハードウェア・ソフトウェア*(以降、*は内容まとめにPowerPointを使用) 3 情報ネットワーク* 4 文書作成の基本①(Word書式設定) 5 インターネット* 6 産学連携 7 文書作成の基本②(Word画像・図形・表の挿入) 8 情報システムの課題 9 文書作成の基本③(Wordページ設定)・レポート課題再確認 10 表計算の基本①(Excel書式設定) 11 情報リテラシーレポート作成・作成上の注意点など質疑応答 12 産学連携 13 表計算の基本②(Excel計算式・関数) 14 表計算の基本③(Excelグラフ・データベース) 15 プレゼンテーションの概要(PowerPointまとめ)・情報リテラシーと処理技術まとめ			
必須テキスト	『情報リテラシーと処理技術 第3版』三木紘武著 豊岡短期大学			
参考文献	授業内で適宜紹介			
担当教員の専門分野等	博士(人間科学)。比較行動論。大学非常勤講師(情報基礎科目)。 民間PCスクール、企業新人PC研修、再就職PC研修、教育現場でのICT機器の操作活用支援を経験。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育原理 必修 講義		講 師	向井 優芽
授業概要	「保育とは何か」ということについて考えていきます。自分の考えを持って、保育は誰のためにあり、何のためにあるのか、自分はどんな保育者になりたいか、を考え続けるための授業です。			
授業目標	1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史の変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。			
到達目標1	1. 保育は誰のためにあるのか、何のためにあるのかを説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	・最終回に実施予定の記述式テストで評価する(50点) 自分の考えをわかりやすく、適切な表現で記載すること。漢字等の誤字は減点にしません。表現には気を付けること。(例えば「～させる」「～してあげる」は望ましくない場合が多い) 量より質で評価する。例えば「〇〇は大切だと思う」だけでなく、なぜそう考えるのかが書かれていること。加えて具体的な場面の想定、自分の経験が踏まえられているとより評価できる。	
到達目標2	2. 保育における「5領域」の内容を自分の言葉で説明できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	・授業内に実施する筆記テスト(穴埋め)で漢字を含め一言一句間違えずに正答すること。(20点) ・授業内のグループワークにおいて5領域の視点をもった考察を行うこと(30点)	
授業方法	・講義やグループワーク 保育者には他者とのコミュニケーションや自分の考えを表現する力が大切です。 ・テスト(小論文形式)			
授業計画	1 オリエンテーション 2 保育と学校教育の違い 子どもの権利と最善の利益 3 保育の理念と保育の基本 4 養護と教育の一体性についての事例検討・グループワーク 5 保育の内容 3つの視点と5領域 6 7 エピソードを書く・読む 8 エピソードの検討 5領域への理解を深める 9 保育内容 内容の取扱いと配慮事項 10 保育の計画と記録(1) 11 保育の計画と記録(2) 12 13 エピソードを書く・読む 14 エピソードの検討 保育者のかかわりについて 15 ・5領域に関する用語の穴埋め問題 ・「保育とは何か」に関する小論文(具体的な内容はそれまでの授業内で提示します)			
必須テキスト	保育所保育指針(幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領)			
参考文献	授業時に紹介			
担当教員の専門分野等	保育者の専門性・実践知に関する研究をしています。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	教育原理 必修 講義	講 師	水引 貴子	
授業概要	世界の教育思想や日本の教育の歴史的変遷が、現代日本の教育や保育にどのように影響を与えているかを学び、理解する。また、現代的な課題にも目を向け、それらに保育者としてどのように向き合うのか考える姿勢を育てる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の教育思想を学び、日本への影響を理解する。 2. 日本の教育の歴史を学び、現代への流れを理解する。 3. 教育の今日的課題を捉え、自分なりの向き合い方を考える。 4. 日本の教育・保育制度の仕組みへの理解を深める。 5. 自分が理解したことや考えたことを言語化し、他人へ分かりやすく伝える。 			
到達目標1	教育の歴史における重要な人物の教育思想や子どもに関する今日的課題を理解したうえで説明し、自らの保育実践にどのように活かすのかについて具体的に述べられたかを確認するために、レポート作成2回、および毎回の授業プリントへの記入、発表で評価する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	発表(10点)、レポート作成(15点×2)、授業プリントの記入(10点)	
到達目標2	言語活動を通して他者と協働して保育の現代的課題の解決に向かう姿勢が育っているかを確認するために、グループワークおよびコメントペーパーへの考察の記入で評価する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの貢献(30点)、毎回のリアクションペーパーへの考察記入(20点)	
授業方法	教科書およびパワーポイントを活用した講義。プリントへの記入。グループワークを行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション:授業のルール確認 教育原理の意義 レポート説明 2 諸外国の教育思想①コメニウス～ベスタロッチ、レポート指導 3 諸外国の教育思想②フレーベル～デュイ、レポート指導 4 教育の歴史における人物に関する発表 5 子どもの権利条約 6 産学連携 7 子どもの貧困 8 子どもに関する今日的課題:発表 9 日本の教育の歴史① 10 日本の教育の歴史② 11 学校制度と義務教育 12 産学連携 13 学習指導要領と幼児教育 14 学校外との連携 15 まとめおよび試験対策 			
必須テキスト	菅原健太、伊藤美和子、渡邊舞、明日川知美『教育原理』豊岡短期大学			
参考文献	『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 適宜配布資料がある。			
担当教員の 専門分野等	幼児教育学や教育思想史分野を中心に、子ども観研究を行っている、近年では実習担当として幼稚園実習の在り方に対する研究にも取り組んでいる。小学校での勤務経験がある。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

2025年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉 必修 講義		講 師	荒田 直輝
授業概要	本授業では①子どもと子育てをする者を取り巻く環境についての理解を深めること②子ども家庭福祉について関わる施設や機関について学ぶこと③エンパワメント・ストレングスの概念から子ども・家庭に関わる保育者の専門性の特徴を掴むことを目的とする。			
授業目標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。			
到達目標1	子ども家庭福祉における基礎的な知識に対して幅広く興味・関心を持つことを目標とする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(出席状況も加味) 50点	
到達目標2	子ども家庭福祉の各回のテーマで学んだ内容に対して感じたことを言語化する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	各回授業の終わりに小レポート(感想を含む) 50点	
授業方法	パワーポイント・映像資料などを用いた講義形式。			
授業計画	1 オリエンテーション 2 「子どもの権利」とは 3 子ども家庭福祉の歴史的展開 4 現代社会における「子どもと生活」 5 子育てをめぐる問題① 6 産学連携 7 子育てをめぐる問題② 8 保育サービス① 9 保育サービス② 10 子どもの遊びと福祉①(児童館とは) 11 子どもの遊びと福祉②(学童保育とは) 12 産学連携 13 子どもの遊びと福祉③(冒険遊び場とは) 14 子どもの居場所と福祉 15 子ども・若者の社会参加・参画			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
担当教員の 専門分野等	子ども・若者支援、プレイソーシャルワーク、遊びと福祉。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	40 %
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	0 %
	他者と関わる力	0 %	専門的知識・技術	30 %

2025年度 講義要綱

科目	社会福祉		必修 講義	講師	久利 要子
授業概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、相談援助の実際について学ぶ。 子ども家庭支援の視点に立ち、最新動向をふまえて現場の実践に関連づけながら学習する。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。 				
到達目標1	1.子育て家庭の生活課題について、現代の社会状況をふまえて広い視野で考えることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(5点) 産学連携課題等の提出状況(20点) 確認レポート(25点)		
到達目標2	2.相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉の今後の展望に自らの関心を向けていくことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(5点) 産学連携課題等の提出状況(20点) 確認レポート(25点)		
授業方法	講義形式。テキストの内容に関連する最新資料や映像教材なども活用していく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 初回ガイダンス・社会福祉の理念と概念 2 社会福祉の歴史の変遷 3 子ども家庭支援と社会福祉 4 社会福祉の制度と法体系 5 社会福祉の実施機関 6 産学連携 7 社会福祉の専門職 8 社会保障及び関連制度の概要 9 相談援助の理論 10 相談援助の意義と機能 11 相談援助の対象と過程 12 産学連携 13 相談援助の方法と技術 14 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 15 今後の展望・学習のまとめ(確認レポート) 				
必須テキスト	『十訂 保育士をめざす人の社会福祉』相澤譲治編、株式会社みらい				
参考文献	『社会福祉小六法2025』ミネルヴァ書房 など(授業中に適宜、紹介します。)				
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 保育士、社会福祉士として母子生活支援施設や高齢者在宅サービスの現場で相談業務を経験し、「ソーシャルワーカーとしての保育士の役割」を研究テーマとしている。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2025年度 講義要綱

科 目	社会的養護 I 必修 講義	講 師	北川 裕子	
授業概要	社会的養護の役割や援助内容を学ぶ。			
授業目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。			
到達目標1	現代社会における社会的養護の意義や課題について理解できる。 社会的養護の制度や実施体系、社会的養護の基本について理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(10点)、講義内容に関する筆記試験(40点)	
到達目標2	子どもの人権を尊重すること、自立を支援することとは何かを考えることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(10点)、提出物(40点)	
授業方法	講義を中心に、保育現場での実践力を身につけられるよう事例研究やロールプレイ等の学習も行う。			
授業計画	1 社会的養護とは?(理念と概念) 2 社会的養護の歴史 3 子どもを取り巻く状況と社会的養護の意義・役割 4 児童観の変遷、子どもの権利擁護と社会的養護 5 施設内虐待の防止 6 産学連携 7 児童虐待 8 社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体系、社会的養護に関わる専門職 9 養護の基本原則 10 家庭養護 11 施設養護の実際(支援内容) 12 産学連携 13 施設養護とソーシャルワーク 14 運営管理(措置制度と利用契約制度、倫理の確立など) 社会的養護と地域福祉、今後の展望1 15 社会的養護と地域福祉、今後の展望2 筆記試験			
必須テキスト	図解で学ぶ保育「社会的養護 I」原田旬哉他編著 萌文書林 「ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック」中央法規			
参考文献	参考資料は授業時に紹介。			
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	15 %
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育の心理学 必修 講義		講 師	前川 洋子
授業概要	保育・教育現場における発達心理学の基礎的な理論及び発達を捉える視点について理解する。乳幼児期の発達の知見に加え、子どもの学びの過程や特性について発達と学習の領域を中心に学び、子どもの育ちを支える保育・教育実践に活用する方法を習得する。			
授業目標	1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。			
到達目標1	科目の内容理解 保育実践に関わる子どもの発達理論等の基礎的な心理学知識を習得し、学びの過程や学習理論、特性について理解し説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	レポート作成 子どもの発達における学びと動機づけを理解し、学習性無力感や自己効力感の心理的知識を保育者としてどのように活用していくのかについて具体例をあげて説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、レポート(30点)	
授業方法	講義型 ICTを活用した理解度チェックとフィードバックを行う。 豊岡短大併修のレポート作成指導と科目試験対策を含む。			
授業計画	1 オリエンテーション 保育・教育心理学とは 授業展開 豊岡短期大学併修 レポート作成・試験対策について 2 レポート作成 子どもの学びと動機づけ(1) 動機づけ 内発的動機づけ 外発的動機づけ 3 レポート作成 子どもの学びと動機づけ(2) 学習性無力感 自己効力感 4 レポート作成 動機づけ、学習性無力感・自己効力感をふまえた知識を保育者としてどのように活かしていくか具体例 5 レポート作成(用語解説)1 横断的研究法 縦断的研究法 原因帰属 防衛機制 6 産学連携 子どもの発達心理をふまえて産学連携の場で学ぶ 7 子どもの学びと学習理論(1) 古典的条件づけ オペラント条件づけ 試行錯誤学習 洞察 観察学習 8 子どもの学びと学習理論(2) 知識を保育者としてどのように活かしていくか具体例 9 子どもの心理発達 愛着・情緒の発達 認知発達理論(ピアジェ) 10 子どもの発達と心の問題 配慮を必要とする子どもの発達 11 子どもの発達とパーソナリティ 気質 パーソナリティの諸理論 12 産学連携 子どもの発達心理をふまえて産学連携の場で学ぶ 13 豊岡短大科目試験対策(1) 学習理論 洞察 学習指導の形態 有意義受容学習 発見学習 学習評価 相対的評価 絶対的評価 14 豊岡短大科目試験対策(2) 動機づけ ビグマリオン効果 アンダーマイニング効果 オペラント条件づけ 研究法 実験法 面接法 15 総まとめ 子どもの発達と心理学を活かした保育・教育現場における具体例 / 知識の活用例			
必須テキスト	稲田達也・鈴木由美 他、『教育心理学』豊岡短期大学テキスト 2023年			
参考文献	豊岡短期大学通信教育部『レポート設題集』『科目試験問題集』(令和7年度実施用)			
担当教員の専門分野等	教育カウンセラーとして子育て相談員及び社会福祉法人の第三者委員を歴任。大学通信教育テキスト『子ども家庭支援論』『特別支援教育』他、『保育の心理学演習ブック』ミネルヴァ書房他執筆			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2025年度 講義要綱

科 目	子どもの理解と援助 必修 講義		講 師	土屋 多恵子
授業概要	子どもの内面を理解するために大事にしたいポイントや考え方を学習する。 保育者の専門性として、子どもとの信頼関係を気づき、健やかな成長のための援助について様々な事例から学びを深める。			
授業目標	1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。			
到達目標1	子どもを理解するための援助の基本姿勢を学ぶ。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	発表(取り組み20点、内容30点)	
到達目標2	子どもの視点から子どもが見ている世界を想像し、関わり方を考察できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	発表(取り組み20点、内容30点)	
授業方法	講義と並行して、事例検討、グループワーク等、演習的学習を通して、子どもの理解と援助のための基本姿勢を養う。			
授業計画	1 オリエンテーション「子ども理解と援助とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 保育における子どもの理解の意義 3 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開 4 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 5 子どもの生活や遊び 6 産学連携 7 集団における経験と育ち 8 葛藤やつまずき 9 保育の環境の理解と構成 10 環境の変化や移行 11 子どもを理解する方法①(観察・記録・省察・評価) 12 産学連携 13 子どもを理解する方法②(協働) 14 特別な配慮を要する子どもの理解と援助・発達の連続性 15 学期末試験			
必須テキスト	『子どもの理解と援助』演習で学ぶ、心身の発達をみる力と保育者のかかわり方 井戸ゆかり編著 園田巖・紺野道子 萌文書林			
参考文献	授業中に適宜紹介。			
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。 主任児童委員として地域における支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を修得する授業を行う。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	35 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	15 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	10 %

2025年度 講義要綱

科目	子どもの保健 必修 講義	講師	竹内 麻貴	
授業概要	1. 子どもの健康の定義や保健の意義を理解する。 2. 子どもの生理解剖および機能を学び、子どもの健康維持に必要な身体的知識を理解する。 3. 子どもの心身の発達について基礎的な知識を理解する。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
到達目標1	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験50点	
到達目標2	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	提出物(課題、リアクションペーパーなど)40点 授業参加態度(授業態度やグループワーク参加態度など)10点	
授業方法	1. パワーポイントや図、グループワークなども取り入れ、内容の理解につなげ、学生と考えながら学ぶ授業構成とする。 2. 保育士、保護者、児などのあらゆる立場から健康を理解するような方法を取り入れる。 3. 興味を持ちながら更に理解できるように看護師及び子育ての体験談、社会報道の紹介等の工夫を行う。			
授業計画	<p>1 ・心身の健康の定義と保健の意義、学ぶ必要性を理解する。 ・自己紹介</p> <p>2 ・母体の妊娠～出産までの経過および、新生児の特徴を学び理解する。 ・胎児期～出生時の障害児を学ぶ。</p> <p>3 ・体のつくりを知る ・臓器などの働きを知る</p> <p>4 ・身体発育・運動機能発育の特徴を学び、理解する。 ・脳神経系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・脳、神経、原始反射など。</p> <p>5 ・子どもが病気になった時、体調不良の表現方法や知らせ方など子どもならではの特徴を学び、理解する。 ・循環器系の生理的機能と発達および疾患 ・心臓、血管、血液、脈拍、血圧など。</p> <p>6 課題を提出する 課題: 保育室内や園庭で子どもたちの安全を守るための環境構成や工夫など気がついた点をあげてください。</p> <p>7 ・呼吸器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・肺、呼吸のしくみ、上気道炎、SIDSなど。</p> <p>8 ・消化器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・胃、腸、胃腸炎、下痢など。</p> <p>9 ・睡眠とホルモンの関係を知る ・成長と睡眠の大切さを知る</p> <p>10 ・感覚器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・目、鼻、口、耳、触覚などの感覚器。</p> <p>11 ・感覚器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・目、鼻、口、耳、触覚などの感覚器。</p> <p>12 課題を提出する 課題: 保育者は子どもたちに対してどのような暑さ対策(熱中症対策)をしていましたか?</p> <p>13 ・悪性腫瘍、障害など。</p> <p>14 ・院内保育、病棟保育士など</p> <p>15 定期試験</p>			
必須テキスト	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版			
参考文献	授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布。			
担当教員の専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科など)。 取得資格・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。 出産後、小児科クリニック看護師業務。 看護業務と共に、大学、短大など兼任講師を行う。 テキスト『子どもの保健と安全・第5章』執筆。 女性の家事・育児という視点で国際女性会議にて講演を行う。 子育て支援コミュニティ「KiraKira」発行。母子支援NPO「SKIP」を設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	60 %

2025年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養 必修 講義		講 師	大野 康子
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達、発育過程における食生活と栄養の特性について学ぶ。 自らの食への意識や食生活を省み、適切な食習慣を実践する力を身につける。 特別な配慮を要する子どもについて理解し、子どもがどのように食を営む力を育ていけばよいか、実践に対応できる支援方法を学ぶ。 			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的な知識を習得する。 学んだ知識を保育の実践に活かし、具体的な食生活支援及び、食育の場で活用できる力を養う。 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン(平成31年改訂版)」厚生労働省			
到達目標1	人の身体と食の関係を把握し、子どもの成長・発達と食について説明することが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)・講義内容に関する筆記試験(30点)→合計50点	
到達目標2	子どもの精神的、身体的発達状況、食環境に配慮して多角的観点から食の支援について説明出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論へ貢献度(30点)、講義内容に関する筆記試験(20点)→合計50点	
授業方法	テキストや参考文献のプリントでの講義。 課題に対してグループ討議する。			
授業計画	1 ・オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持ち物等の説明)・子どもの健康と食生活の関係 2 栄養に関する基礎的知識(栄養素の種類と機能)糖質と脂質 3 栄養に関する基礎的知識(栄養素の種類と機能) たんぱく質 4 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 5 幼児期の心身の発達と食生活(食の好き嫌い・偏食) 6 産学連携「環境・子どもの姿」 7 産学連携の振り返り・保育所における食生活 8 子どもの食生活の現状と課題 9 乳幼児の食事提供について(保育者の配慮と支援) 10 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(アレルギー食の対応) 11 特別な配慮を要する子どもの食と栄養(病児・宗教食への対応) 12 産学連携「保育者の姿・保育者と子どもとの関わり」 13 産学連携の振り返り ・食育の基本的な考え方 14 食育アクティビティ体験 15 まとめ・筆記試験			
必須テキスト	子どもの食と栄養【新版】北大路書房			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントして配布する。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員の授業」に該当。 長年保育現場(幼稚園、0.1.2歳保育所、病児保育)に携わる。現在は幼稚園、保育園での食育アクティビティ講師、養育者や保育者向けの研修講師として活動。幼児の食行動について研究を進めている。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容総論		必修 講義	講 師	加莉 則子
授業概要	「保育とはなにか」「保育内容とはなにか」、保育現場で必要とされる基礎的知識を学ぶ。また、子どもの発達を捉えた保育内容について理解を深める。				
授業目標	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。保育内容について、基礎的知識を理解し、説明することができる。				
到達目標1	保育内容について、基礎的知識を理解し、説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	期末試験(50点)		
到達目標2	保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解し、説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題提出(50点) ※短大レポート提出は単位取得必須事項とする。		
授業方法	①短大レポート課題に基づいて基礎的知識を講義する。 ②個人ワーク グループワーク				
授業計画	1 オリエンテーション(講義の概要とねらい) 2 保育内容の歴史の変遷と『保育所保育指針』改定のポイント 3 子どもの発達や生活に即した保育内容①乳児保育、満1歳以上3歳未満児 4 子どもの発達や生活に即した保育内容①3歳以上児 異年齢 5 保育の基本を踏まえた保育内容の展開(生活と遊び) 6 産学連携 7 産学連携振り返り/ レポート対策～子どもの非認知能力について 8 レポート作成① 9 レポート作成② 10 特別な配慮を必要とする子どもの保育 11 子育て支援 12 産学連携 13 産学連携振り返り/短大試験対策 14 授業振り返り まとめ 15 期末試験				
必須テキスト	短大指定テキスト				
参考文献	必要に応じ授業内で紹介する				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当する。保育所にて保育士、主任、園長として長年勤務する				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊び I		必修 講義	講 師	藤村 秀子、国友 真知子、鈴木 真智子、楠野 麻衣
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。歌遊びのグルーブレッスンを45分、ピアノ等の個人レッスンを45分、グループ分けに従って教室を移動して受講する。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグルーブレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に鍵盤と手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	<p>1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) (B)2グループに分かれて45分で入れ替わる)</p> <p>2 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)歌遊びのグルーブレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。</p> <p>3 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。)</p> <p>4 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)</p> <p>5 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。</p> <p>6 産学連携第6週課題:手遊びやわらべ歌、リズム遊びや子どもの歌等、音楽遊びは現場でどのように活用されていましたか?またピアノやリズム楽器、その他の音楽遊びの環境はどのように設定されていたか、教えてください。</p> <p>7 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)わらべ歌・手遊び歌の演習</p> <p>8 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)童謡・唱歌等の子どもの歌の演習</p> <p>9 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ)</p> <p>10 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)リミックを含む歌遊びの演習</p> <p>11 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。</p> <p>12 産学連携第12週目課題:保育者が子どもの歌やリズム遊び、わらべ歌等を用いて子どもたちと関わるシーンがありましたか?その働きかけによって子どもたちの心や行動はどのように変化しましたか?感じたことを教えてください。また、そのようなシーンに出会わなかった方は、自分が取り扱いたい曲名1曲と、どんな時に、どんなねらいで用いたかを書きましょう。</p> <p>13 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。</p> <p>14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) (B)共)</p> <p>15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)(B)共)</p>				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの子』教育芸術社				
参考文献	『子どもの指導法「音楽表現」』豊岡短期大学				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊び I 必修 講義		講 師	加藤 ふじこ
授業概要	保育に必要な「造形」に関する理解を深め、表現技術も併せて習得する。そして作品製作を通して、自由な表現力を身に付ける。特に「子どもの遊び」をかなめとし、自らも造形活動を楽しむ心を持つ。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	授業に参加し、理解する。そして授業時間内に制作できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への参加姿勢、取り組んだ内容、回数で評価。 (常識的に考えて相応しくない受講態度の場合、評価できない) 45点+提出回数や創意工夫など熱心な姿勢5点	
到達目標2	将来、子どもの遊びを援助するため、幼児の絵画を理解し、造形技術を習得、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品提出 (作品を撮影しteamsに画像を提出、提出回数やコメント、締切日厳守で評価) 45点+その他 ①グループワーク等での周囲との協力する姿勢 ②制作後の清掃・片付け等の社会的マナー ③期日までの課題提出、課題提出状況等の自己管理能力等 5点	
授業方法	1.実技 2.座学 (基本毎回課題提出) * 社会情勢や進行状況により内容や順番を適宜変更			
授業計画	1 前提講義:講師挨拶、授業受講のルール、線、点、円の練習、提出課題:こいのぼりか雨の制作 2 フロッタージュを用いた制作、提出課題:凸凹を映し取った作品 3 デカルコマニーを用いた制作、提出課題:デカルコマニーで制作した作品 4 自然物(草花)を用いた制作(天候を考え、授業の順を入れ替えることもある)、提出課題:制作した作品 5 ○△□を組み合わせた制作、提出課題:画用紙に○△□で構成した絵画作品 6 産学連携 *造形の授業はないが、課題に回答して提出。 7 紙コップを用いた工作とそれを用いた遊び、提出課題:紙コップで作成した跳ねるカエル 8 <講義1> 幼児画特徴について:記入プリント:HB* 提出課題:プリントの一部写真 9 色の基本、貼り絵制作、提出課題:虹色をテーマにした貼り絵作品 10 にじみ絵、はじき絵制作* 提出課題:コーヒーフィルターなどを使った作品 11 <講義2> 幼児画の発達段階について:記入プリント、提出課題:プリントの一部写真 12 産学連携 *造形の授業はないが、課題に回答して提出。 13 クレヨンを用いたひっかき絵制作、提出課題:制作した作品全て 14 紙の加工、ハサミの使い方、提出課題:ミックスドリンク 15 スタンプやビー玉転がしを使ったスミエの世界の制作と魚釣り遊び、提出課題:制作した作品全て			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	担当教員 なかむら(NS1):絵本作家、イラストレーター 川原(NT1):児童教育全般、小学校講師 加藤(G1): 絵本作家、イラストレーター			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2025年度 講義要綱

科 目	必修 乳児保育 I 講義		講 師	向井 優芽
授業概要	3歳未満児の保育について学びます。乳児保育 I では、乳児保育の意義や目的、乳児保育の現状や課題、また3歳未満児の発達を踏まえた保育内容について学んでいきます。			
授業目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。			
到達目標1	1. 乳児保育の意義・目的を説明できるようになる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	最終回に実施予定のテスト(50点)	
到達目標2	2. 乳児保育における「愛着」や「安全基地」について自分の言葉で説明できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	最終回に実施予定のテストにて、自分の言葉で「愛着」や「安全基地」とは何かを説明する。(50点)	
授業方法	・講義やグループワーク 保育者には他者とのコミュニケーションや自分の考えを表現する力が大切です。 ・テストあり			
授業計画	1 この授業の内容や方法について説明します。その上で、時間があれば、乳児保育についてのイメージを聞かせていただければと思います。 2 乳児保育とはそもそも何か、またその社会的意義について学びます。 3 保育所保育指針における乳児保育の理念と、児童福祉施設の設備運営に関する基準について学びます。その上で、乳児保育が行われているさまざまな場所についても知っていきましょう。 4 子どもが育つことの基盤になる「愛着」について学びます。子どもは愛着対象である大人を安全基地にして遊びや環境に向かいます。それによって、子どもは好奇心や探究心をもって、外の世界に自ら働きかけることが出来るようになります。 5 乳児保育で大切な「3つの視点」と、1歳以上3歳未満、3歳以上の保育で大切な「5領域」について、それらがなぜ必要なのか、また「3つの視点」と「5領域」のつながりについて学びます。 6 7 0～3歳を見通したときどんな流れで子どもが発達して(育って)いくのか、おおまかにさらってみましょう。 8 保育所保育指針第2章には、保育における「ねらい」と「内容」が書かれ、その上で「保育の実施に関わる配慮事項」という項目が設けられています。そこに書かれた内容について詳しく学んでいきましょう。 9 保育所や認定こども園の乳児保育では「日課」や「デイリープログラム」と呼ばれる1日の流れがおおまかに決められています。子どもが同じ生活リズムで過ごすことが、心身の安定につながるからです。そうしたデイリープログラムについて、具体的に見ながら、同時に職員の勤務体制についても考えてみましょう。 10 具体的な事例から、職員間の連携について考えてみましょう。同時に担当制についても触れ、そのメリットや気を付けなければならないことについても考えてみましょう。 11 乳児を保育する上では、特にその家庭での過ごし方を知ることが重要です。保育する上で必要な保護者とのコミュニケーションと、その支援について学びます。 12 13 産学連携での観察内容から、エピソードを書き、また他の学生のものを読んでみましょう。エピソードから、乳児の心の動き、育ちを捉えてみましょう。 14 産学連携での観察内容から、エピソードを書き、また他の学生のものを読んでみましょう。エピソードから、乳児の心の動き、育ちを捉えてみましょう。 15 ・乳児保育の意義・目的を説明する ・乳児保育における「愛着」や「安全基地」とはどういうものか、具体的な例を用いて説明する ※教科書やプリントの持ち込みは不可。自分でまとめたノートなどは持ち込み可とする			
必須テキスト	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 松本峰雄監修 池田りな・才郷真弓・土屋由・堀科(2019)『乳児保育演習ブック第2版』ミネルヴァ書房			
参考文献	授業中に紹介			
担当教員の専門分野等	保育者の専門性について研究しています。 とくに子どもと保育者が実際にかかわっている相互行為において生じる専門性の研究をしています。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科目	子どもの健康と安全	必修 講義	講師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康や安全を守る定義や意義を理解する。 2. 子ども生命維持に必要な知識を学び理解する。 3. 子どもの安全について基礎的な知識を理解し、具体的な対策等を考慮することができる。			
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等			
到達目標1	「子どもの保健」で学んだ総合的に保育することを踏まえ、子どもの健康保持や安全維持するために必要な知識を理解し深めることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	定期試験(50%)	
到達目標2	保育現場や保育活動を行う場面を想定し、具体的な安全対策および救急処置が行える。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	・授業参加態度(演習態度10%、授業態度10%) ・提出物(課題、リアクションペーパーなど)(30%) 合計50%	
授業方法	・講義、演習、グループワーク等、授業内容にそった授業形式とする。 ・実際に起こった事故の検証、 ・子どもに起こりやすい事故の演習、 ・ポスターやマニュアルを作成 などを通して事故予防の重要性を学ぶ。			
授業計画	1 子どもの健康の維持と安全管理の必要性を考え、理解する。 2 子どもが体調不良を起こす原因、発生状況を知る。また予防法も理解する。 3 子どもが体調不良を起こしたときの観察点や応急処置の基本を学び、理解する。 4 事故予防について学ぶ。 5 けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。 6 課題を提出する 課題:保育室内や園庭で子どもたちの安全を守るための環境構成や工夫など気がついた点をあげてください。 7 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 8 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 9 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 10 ・誘拐や事件の予防について学ぶ。 11 ・誘拐や事件の予防について学ぶ。 12 課題を提出する 課題:感染症から子どもたちを守るために、保育者が行っていたこと(環境設定、働きかけ、声かけ等)を記入してください。 13 実際に起こった事故を通して考えるグループワークを行う。 14 授業全体をふりかえる。 15 筆記定期試験を行う。			
必須テキスト	『新基本保育士シリーズ⑩子どもの健康と安全』松田博雄、中央法規			
参考文献	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版 授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布			
担当教員の専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科、呼吸器科など)。取得資格・・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。出産後、小児科クリニック看護師業務と同時に、女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。母子支援NPOを設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %

2025年度 講義要綱

科 目	子どもと保育 選択必修 講義		講 師	石原 成
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。			
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 現場活動を通して、実践で活躍する人材へと成長する。			
到達目標1	実習への準備の基本として、授業に毎回出席する、提出物の期限を守る、報連相を行うことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(10点)→授業プリントの添付課題(20点)→保育所見学の振り返り提出物(20点)→お礼カードの作成	
到達目標2	実習をイメージしながら、実習に必要なスキルを習得する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)→授業プリントの添付課題(15点)→折り紙や手遊び、絵本などの授業内課題提出物(15点)→スケッチブックシアターの発表	
授業方法	実習をイメージするために必要な基礎知識を学びと共に、手遊びや折り紙など実践的なスキルを高める。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション:授業のルールと自分が学ぶべきことを理解する 保育園の基礎的語句(環境と一日の流れ)を理解する 2 保育現場の活動に向けて園の方針・特色を知る「園長先生の講義①②」 3 保育現場の活動に向けて園の方針・特色を知る「園長先生の講義③」 保育教材を知る① 4 「映像から学ぶ」色々な保育園があり、新人保育士の頑張っている姿から自分の将来をイメージする 保育教材を知る② 5 保育学生としてのマナー 保育教材を知る③ スケッチブックシアター(意義と作成方法) 6 産学連携 保育所見学①保育園の環境 課題→保育園の環境で印象に残ったものをまとめる 保育所見学②子どもを観察する 課題→子どもを観察して印象に残ったものをまとめる 7 保育所見学(1回目)振り返り(環境図の作成と子どもの観察エピソードの作成) スケッチブックシアター作成② 8 スケッチブックシアター作成③ 保育教材を知る④ 9 「実習のながれ」を知り、実習までの道しるべをイメージする① 保育園に渡すカード製作(1)デザインを考える 10 「実習のながれ」を知り、実習までの道しるべをイメージする② 保育園に渡すカード製作(2)製作 11 保育園に渡すカード製作(3)完成させる 保育者と子どもの関わる場面を考える 12 産学連携 保育所見学 保育者を観察する。 課題→保育者を観察し、印象に残ったものをまとめる 保育所見学 保育者と子ども関わる場面を観察する。課題→保育者と子どもが関わる場面を観察し、印象に残ったものをまとめる 13 保育所見学振り返り 14 保育所見学まとめ スケッチブックシアター制作(4)発表練習 15 授業の振り返り 子どもの視点に触れる 			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ	選択必修 講義	講 師	藤村 秀子、楠野 麻衣、 浦 啓子、国友 真知子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌い出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)	
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)	
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。またオンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。			
授業計画	<p>1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A B2グループに分かれて45分で入れ替わる)</p> <p>2 Aピアノ等による個人レッスン/B歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。</p> <p>3 Aピアノ等による個人レッスン/B保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。)</p> <p>4 Aピアノ等による個人レッスン/B現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)</p> <p>5 Aピアノ等による個人レッスン/B子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。</p> <p>6 後期産学連携第6週課題:今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか?そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に会わなかった方は、音楽遊びを園生活の中で必要に応じて展開する際、保育者はどんなことに気を付けたらよいか、考えを教えてください。</p> <p>7 Aピアノ等による個人レッスン/Bわらべ歌・手遊び歌の演習</p> <p>8 Aピアノ等による個人レッスン/B童謡・唱歌等の子どもの歌の演習</p> <p>9 Aピアノ等による個人レッスン/B簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ)</p> <p>10 Aピアノ等による個人レッスン/Bリトミックを含む歌遊びの演習</p> <p>11 Aピアノ等による個人レッスン/B互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。</p> <p>12 後期産学連携第12週課題:今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか?そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に会わなかった方は、11月ならどんな歌遊びを、どんな展開で子どもたちと楽しみたいか、対象年齢も決めた上で教えてください。</p> <p>13 Aピアノ等による個人レッスン/B個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。</p> <p>14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A B共)</p> <p>15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A B共)</p>			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱい』教育芸術社			
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編 『子どもの指導法「音楽表現」』豊岡短期大学			
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

2025年度 講義要綱

科 目	ゼミナール I		選択 講義	講 師	加莉 則子、竹島 孝昭、 遠藤 祐太郎
授業概要	<p>「どこ行こう?」「なにをしよう?」 友達や先生と一緒に“わくわく”しよう!</p> <p>①「もぐもぐ」食べる 子どもと楽しく食べるを体験しよう 担当:竹島 ②「のびのび」動く 子どものアクティビティを体験しよう 担当:遠藤 ③「見る聞く」触れる 子どものスキを体験しよう 担当:加莉</p>				
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実体験を通して、幅広い視野を持つことができる。 ・積極的な学びを通して、保育者に求められる協働の態度や豊かな感性を養う。 				
到達目標1	各自の興味関心に基づいて調べ学習を行い、得られた内容を説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	課題提出(30点) 成果発表(20点) ※前期ゼミ、後期ゼミ、合算評価		
到達目標2	校外学習を通して、さまざまな事象に関心を持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題提出(50点) ※前期ゼミ、後期ゼミ、合算評価		
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は前期7コマ、後期8コマの通年科目である。 ・各自の興味関心に応じて、前期後期それぞれ1つずつゼミを選択する。 ・校外学習など、各ゼミ受講者の関心、希望によって授業内容を組み立てる。 				
授業計画	1 【前期】オリエンテーション(授業の概要とねらい) 2 【前期】事前学習(1) 3 【前期】事前学習(2) 4 【前期】校外学習 5 【前期】校外学習 6 【前期】校外学習事後課題 7 【前期】前期のまとめと後期に向けて 8 【後期】オリエンテーション 9 【後期】事前学習(1) 10 【後期】事前学習(2) 11 【後期】校外学習 12 【後期】校外学習 13 【後期】校外学習事後課題 14 【後期】後期のまとめ 15 【後期】1年間のふりかえり				
必須テキスト	特に指定しない。				
参考文献	その都度、指示する。				
担当教員の 専門分野等	加莉 則子、竹島 孝昭、遠藤 祐太郎 「実務経験のある教員による授業」に該当する。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %	

2025年度 講義要綱

科目	保育の現場活動 選択 講義	講師	石原 成	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者を目指すにあたりどのような知識や技術が求められるのかを知り、保育者としての職業意識を養い、高めることを目的とする。 ・保育現場での活動に伴う事前学習および振り返りを通して、保育全体への関心を広めていく。 ・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。(該当科目3コマ) 			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場活動を通して自分の課題と目標を意識する。 ・実習に向けて必要なものを準備し、実習への見通しをもつ。 ・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する。場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークの技術を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術①」飯田有美) ・子ども達の興味について理解する。絵本以外のメディアを知る。(認定:「子どもの心をとらえるもの」細江幸世) ・「おはなし会」について理解する。「おはなし会」のプログラム作成及び運営に係る手法を体得する。(認定:「おはなし会の手法①」)近藤千春 			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の本質、目的、意義を知り、保育者の意図を意識できるようになる。 	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業でのプリント課題(10点)、保育園見学ポスターの作成と発表(40点)	
到達目標2	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向けて必要なものを準備し、実習への見通しをもつことができる。 	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業でのプリント課題(10点)実習準備や実習に必要な課題(40点)	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習(グループワーク)および実技を中心とした授業を展開し、保育現場での活動(実践)、それに向けた自己学習および現場活動後の振り返り、成果発表会を行う。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 前期の現場活動を振り返る 2 保育園の環境構成を知る 3 実習準備 日誌の記入の仕方(1) 環境構成図の記入の仕方と意味 4 実習開拓 保育所の種類と特色を知り、自己開拓をする(1) 5 【認定絵本士養成講座科目】「子どもの心をとらえるもの」担当:細江幸世 6 実習準備 日誌の記入の仕方(2) 活動を時系列でとらえる 7 【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法①」担当:近藤千春 8 実習開拓 幼稚園の種類と特色を知り、自己開拓をする(1) 9 実習開拓 幼稚園の種類と特色を知り、自己開拓をする(2) 10 保育の現場活準備 11 産学連携 保育所見学① 園内の環境を観察する 12 産学連携 保育所見学②子どもを観察する 13 保育所見学振り返り(1) 気づいたこと、感じたことを表現する 14 保育園の1年を知る(1) 4月から9月 15 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術①」担当:飯田有美 			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献	特に指定なし			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。 ○近藤千春:絵本に関する「おはなし会」の実践経験を10年以上持つ者 ○細江幸世:絵本作家、子ども向け番組作成従事者、児童文化に精通した者 ○飯田有美:図書館や学校等においてブックトーク及びビブリオトークの実践経験をもつ者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2025年度 講義要綱

科 目	教育課程総論 選択 講義	講 師	水引 貴子	
授業概要	幼稚園・保育所や認定こども園の教育・保育課程および指導計画の意義や役割を理解したうえで、改訂の歴史的背景や現代の幼児教育の動向を把握する。また、保育におけるカリキュラム評価を学ぶほか、基本的な指導計画の作成方法を習得する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程・保育課程および指導計画の意義や役割について理解する。 2 幼稚園教育要領と保育所保育指針の改訂の変遷を学ぶ。 3 指導案の構成要素を理解したうえで、基本的な作成方法を習得する。 4 教育課程・保育課程を編成するための手順、留意事項および評価・改善の方法について説明できる。 			
到達目標1	幼稚園教育要領の改訂の変遷と内容の変化、および今日的な教育課程の課題について理解したうえで、保育者として自分が考えたことを明確に表現できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	レポート課題(15×2=30点)、リアクションペーパーへの考察記述(20点)	
到達目標2	他者と協力して学習成果を発表したり、指導計画の作成方法がわかる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(15点)、発表(15点)、指導案作成(20点)	
授業方法	教科書とプリントを使用した講義形式を中心に、グループワークなども取り入れる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 教育課程・保育課程とは 教育課程・保育課程の類型と関わる法令 2 日本における教育課程・保育課程の歴史の変遷① レポート指導 3 日本における教育課程・保育課程の歴史の変遷② 4 グループ発表 5 教育・保育課程と指導計画 6 産学連携 7 幼児教育・保育の質向上とカリキュラム・マネジメント 8 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続① 9 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続② 10 グループ発表 11 子どもの安全および特別な配慮を必要とする子どもに応じた教育・保育カリキュラム 12 産学連携 13 指導計画の作成① 14 指導計画の作成② 15 まとめと試験対策 			
必須テキスト	肥後耕生(2021)『教育課程論』豊岡短期大学通信教育部			
参考文献	『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』			
担当教員の専門分野等	子ども観研究および実習指導に関する研究。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2025年度 講義要綱

科 目	保育に生かすやさしい手芸 選択 講義	講 師	酒井 暢子、高田 ちとせ	
授業概要	軍手やフェルトなどで簡単に仕上がる作品づくりを通して、糸針仕事の練習をする。作品を保育の現場で生かせるように、わらべうた、童謡、詩などに合わせた演目で演じ方や遊び方を学ぶ。 【認定絵本土養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。「おはなし会」のテクニックについて理解し、体得する。(該当科目1コマ)			
授業目標	手縫いの基礎及び制作技術を習得する。手作りの人形を使って動かし方の基本を学び、子どもとのコミュニケーションの道具として活用できるようにする。 「おはなし会」のテクニックについて理解し、体得する。(認定:「おはなし会の手法②」)			
到達目標1	毎回の授業で紹介される様々な手縫いの技法を理解し、実践することができる。 6つの作品を完成させながら、制作技術を習得する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	制作への取り組み度(20点)、作品提出(30点) 【認定絵本土養成講座科目】おはなし会の手法②は課題の提出必須。出席+課題提出で、【認定絵本土養成講座科目】に出席となる。	
到達目標2	保育活動を想定した作品の生かし方を学び、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	実演への取り組み度(25点)、発表・レポート(25点)	
授業方法	オリジナルの材料キットを用いて作品を制作。作品の生かし方や応用のアイデアを紹介し、実技指導を行う。 【認定絵本土養成講座科目】では制作した作品を「おはなし会」で活用できるように、演習を行う。			
授業計画	1 手縫いの基礎①、「クラブ人形 指ぶた」制作① 2 「クラブ人形 指ぶた」制作② 3 「クラブ人形 指かえる」制作① 4 「クラブ人形 指かえる」制作② 5 「クラブ人形 指ぶた、指かえる」演じ方練習と演技発表 6 産学連携 7 「ハンカチ人形」制作① 8 手縫いの基礎②、「ハンカチ人形」制作② 9 「ミトン人形 くま」制作① 10 「ミトン人形 くま」制作② 11 「ハンカチ人形、ミトン人形 くま」演じ方練習と演技発表 12 産学連携 13 「ことりん」制作 14 「ことりん」演じ方練習と演技発表 【認定絵本土養成講座科目】おはなし会の手法②(おはなし会のテクニック)「おはなし会」のテクニックの理解と演じ方練習 担当:高田ちとせ 15 「ひまわりブローチ」制作 応用例の紹介			
必須テキスト	特になし 授業時に資料を配布 【認定絵本土養成講座科目】認定絵本土養成講座テキスト			
参考文献	『お話し会で楽しむ手ぶくろ人形』保育と人形の会/編著 児童図書館研究会/刊 『手ぶくろ人形の部屋』高田千鶴子/著 偕成社/刊			
担当教員の専門分野等	子どものための手作り人形など、作品の創作と演目の実践。 【認定絵本土養成講座】高田ちとせ:絵本に関する「おはなし会」の実践経験を10年以上持つ			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	5 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	5 %
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	5 %
	他者と関わる力	5 %	専門的知識・技術	75 %